

2023年度外部研究評価委員会における主要意見及び国環研の考え方

気候変動・大気質研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	学術的にも、気候変動対策立案への情報入力としてもインパクトが高い成果が得られ、IPCCなどの国際活動への高い貢献度など国際的にも存在感のある研究を展開している。また、学際・異分野融合の成果がいくつか得られ、かつさらなる成果の見込みもあるのは、高く評価したい。	本取組について評価いただき有難うございます。引き続き研究の進展に努めます。
	シミュレーションデータや、リアルタイムの推定値公開など、社会に向けたデータ公開は学术界だけでなく、社会的にも大きな意義があると考えられ、高く評価したい。	データ公開の社会的意義の点、ご助言ありがとうございます。今後、データの価値を宣伝することにもより留意してまいりたいと思います。
	GHGとSLCFの排出量のインベントリ間のギャップは各国でどの程度あるのでしょうか？検証は大事なステップで、観測精度が高いことが監視機能として重要。	BC, CO, NOx 排出量推計が中国で2倍程度の開きがありました。日本でも（絶対値は中国よりは格段に小さいですが）同様に2倍程度の差があります。CH ₄ は同様に2倍程度の差となっていますが、CO ₂ は10-15%の差（最大～最小）となっており、アジアの国では概ねこのような傾向にありそうです。今後打ち上がるGOSAT-GWのデータ解析で、CO ₂ とNOxの排出インベントリの検証がグローバルに進むことを期待しています。
今後への期待など	研究資源が限られており、対象物質を増やすことはなかなか難しいですが、大気質という意味では、有害物質にも拡張していただきたい。	今後、本プログラムでオゾンやPM2.5の前駆物質でもあるNOxの排出量に関する知見が得られることにより、オゾンやPM2.5の研究・対策への波及効果も大きいと考えています。
	健康評価については、日本では研究層が薄いので、もっと力を入れて良いのではないかと思います。	健康影響への取組も是非やりたいところですが、人的資源の都合上、なかなかそこまでには至っておりません。今後、他プログラムとの連携も含め、検討してまいりたいと考えています。